

令和5年度 墨田区立小梅小学校 経営報告書

校長名 増渕 裕美

学 校 目 標	○深く考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目 指 す 学 校 像	小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する ～ 子供たち一人一人が輝き、「夢」や「希望」がもてる学校へ ～ 「今日が楽しく、明日が待たれる学校」 ◇児童が、自らの成長を実感できる学校 ◇教師が、児童の成長に手ごたえを感じられる学校 ◇保護者が、児童の望ましい変容を見ることが出来る学校 ◇地域が、学校との結びつきを実感できる学校
目 指 す 子 供 像	①意欲をもって自らが学び、地道に努力し、自分の考えを高めようとする子 ②自分を大切にし、友達のよさを認め、相手の気持ちを考えて行動しようとする子 ③心身ともに健康で、最後まで粘り強く取り組む子
目 指 す 教 師 像	明るく元気で爽やかに毎日を送れる、小梅小学校の教師集団であり続けたい 1. 45分の授業を毎時間大切に、今日を充実して生きる今日師 2. 児童の心に寄り添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる響師 3. 毎日の児童の成長を、地域・保護者と共に喜び、共に歩み続ける共師 4. 教育公務員として信念をもち、責任ある行動をとり、高く強い志をもった強師 5. 学校運営を常に自己の課題としてとらえ、組織で力を合わせられる協師 6. 1日1日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力をし、児童の手本となれる鏡師 7. 児童・保護者・地域住民から尊敬され慕われる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。			○授業の始めに前時の振り返りを行い、学習のつながりを意識させ、新しい課題をつかむようにした。1時間の終わりには、今日の学習の学んだことの振り返りを行い、ねらいとしていた学習のめあてに迫ることができたのかを把握して、次時の学習へとつなげることができた。	A	A
	①1時間の授業は「めあて」が明確であり、かつ振り返りを確実に行う授業。 ②授業や朝学習、家庭学習等で繰り返し学習を行い、基礎学力の習熟を図る。	4	4	・「基礎・基本の確実な習得」を図るには、くり返し学習が必要である。1時間の中で時間がとれない場合は、宿題にする等して、その日に振り返りができるようにする。単元のまとめでも、間違えやすい内容を主に繰り返し学習する。 ・学力向上の取組（校長講話作文、俳句	A	A

様式 4

				作り、よむ YOMU ワークシート、朝学習、家庭学習、自主学習、放課後学習)は、継続して定期的に行っていく。 ・「小梅学習スタンダード7」を基に、家庭と共有しながら内容の徹底を図る。		
特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。				○特別支援委員会を毎月行い、支援を要する児童への具体的な支援の在り方を共有した。 ・巡回指導教員や SC との情報交換・協議を密に行い、個に応じた適切な指導が教室でもできるようにする。	B	B
①特別支援教育の充実を図ため、毎月1回の特別支援校内委員会とまなびの教室との情報交換を行う。	3	4				
②生活指導上の課題を解決するために、毎週金曜日を定例会と位置付け情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底する。	4	4		○毎週金曜日を定例会と位置付け、SC、特別支援教室専門員を交えて情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底できた。 ・特別支援教育の研修を充実させ、教職員の資質能力の向上を図る。	A	A
社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。				○運動会、学芸会等の練習風景を保育園・幼稚園児、先生に見学してもらい、学校の様子や子供たちの成長を伝えることができた。 ・異校種交流を実施できるよう、幼保小中一貫教育の推進のための年度当初の計画と更なる工夫が必要である。	B	B
①幼保小中一貫教育の推進を図り、異校種交流を行う。	3	3				
②本区のアイ・チェックを活用し、自尊感情や自己肯定感を高める指導や助言を行う。	3	3		○年間通じて、夢や目標をもつことの大切さを講話等で伝えたり、実現のために努力している子供を褒め称えたりした。 ・自尊感情や自己肯定感を醸成できる内容や取組を学校行事だけでなく、普段の授業からも意識していく。 ・キャリアパスポートの効果的な活用方法を考えていく。	B	B
③キャリアパスポートを活用し、前期・後期年2回振り返りの期間を全学年実施し、次の目標がもてるようにする。	3	4			B	A
教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。				○研究授業3回、サポート訪問と公開授業を合わせて、全学年、専科の授業研究を実施し、授業力を高めるため研修となった。 ・タブレット端末を活用した授業を毎日行うとともに、自分で調べたり、まとめたり、友達の考えと共有して新たな考えを得たりするような主体的な学習へとなる授業展開を工夫していく。 ・授業参観の視点を持ち、その観点から指導・助言できるようにする。 ・計画的なOJT(年10回以上実施)や指導教諭の授業参観、区小研を通して指導力の向上に努める。	A	A
①研究授業をとおして、授業改善を行い、充実を図る。	3	3				
②管理職による授業観察を年間3回設定し授業力向上を目指す。また、教員同士で見合える環境を作り授業後のリフレクションにも参加して授業力を養う。	3	4			B	B
③指導教諭の授業参観・区小研をとおして、参加者の授業力向上を目指す共に、校内に指導法を伝達する。	3	4			B	A

様式 4

<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>学力向上の取組を全校で取り組んでいることが学力向上につながっている。タブレット端末を十分に活用してよい。小梅小の先生は、子供をよく見て、一人一人に寄り添った指導をしてくれている。特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援は引き続き丁寧に行っていただきたい。</p>
--	--

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		自己評価について	改善策について	
		取組指標	成果指標			
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。			○「トラブルの原因や背景、児童からの聞き取り、児童相互の言い分等を正確に聞き取ること」、「今後の学校の対応の仕方等、保護者に納得のいく説明を行うこと」以上のことを学年(複数)で確実に対応できた。	A	A
	①「その日の問題は、その日に解決」を目指す。児童のトラブルをその日のうちに保護者に伝え、早期対応・早期解決を目指す。トラブル対応は担任一人で解決しようとせず、複数の教員を交え保護者と話し合いをもつ。即答困難な課題については管理職に相談し保護者に伝えることを原則とする。	4	4	・困難な課題については管理職に相談し、その日の内に保護者に伝えることを原則として、迅速に対応していく。	A	A
	②いじめ防止に向けた取り組みは、本校の生活指導上の最重要課題に位置付け、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	4	3	・校長講話、学校だより、いじめ防止授業地域公開講座等、保護者向けの「いじめ防止に向けた学校の取組」を年間3回以上発信し、いじめに対する取組の理解・協力を得る。	B	B
	③年3回ふれあい月間で、児童アンケートを実施し、問題行動や不登校の未然防止を図る。	4	3	・登校しぶり傾向の児童の要因を見付け、不登校になる前に、学校での居場所づくりとSCやSSW、子育て支援総合センター等も含めた組織的な対応をしていく。	A	A
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。			○「基本的な生活習慣「4つのあ(挨拶・集まり・後片付け・安全)」の確立のために、年度当初に児童に指導し、全教職員が同一歩調で確実に指導をし、挨拶、あつまりについては、効果が見られ、意欲的に取り組めた。	A	A
	①基本的な生活習慣「4つのあ(挨拶・集まり・後片付け・安全)」の確立に努める。	3	4	・毎週の校長講話を通して、自己の生活を振り返ることができるようにする。	B	A
	②校長講話や道徳の時間、学校行事などとおして、自己の生活を振り返ることができるようにする。	3	4	・人間関係構築のため、毎回同じ学年での活動ではなく、前期と後期や行事毎に、学年を替えて、たてわり班活動や異年齢交流の活動ができるようにする。	B	A
	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。			○「人権プログラム」、「安全プログラム」、「いじめ防止プログラム」、「使命を全うする」を随時活用し、組織的対応を原則とした。	A	A
	①年間11回の避難訓練を行うとともに、緊張感をもって取り組めるようにする。	4	4	・年間11回の避難訓練を行うとともに、様々な想定の下、実際の災害を想起させ、緊張感をもって取り組めるようにする。	A	A
②朝の会・帰りの会での	3	4	・朝の会・帰りの会での「一声指導」月の安全指導内容を基に、安全プロ	B	B	

様式 4

	「一声指導」を実施			<p>グラムを参考に実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が多発する日本の現状を踏まえ、「自分の命は自分で守る」体験を、地域・PTA と連携をとりながら実施していく。 		
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	「安全・安心」を踏まえた経営方針が徹底されている。児童の安全を守りたい気持ちは、学校、保護者、地域も一緒である。共に考え、連携していきたい。土曜授業の際、おやじの会の見守り活動、朝の挨拶を行っているので、地域の方への挨拶も引き続き児童が元気にできるよう今後に期待したい。				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。</p> <p>①よい生活の習慣化(学習・生活・健康)をめざし、全教職員同一歩調で取り組む。</p> <p>②校内環境を整備し、児童が落ち着いて学習に取り組む、安心・安全に生活できるようにする。</p>	3	4	<p>○年3回の保護者会や毎月の学校公開、行事等で、本校の教育活動を見ていただき、児童の様子や変容を伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よい生活の習慣化」、「安心・安全」を基調とした学校運営を、教職員間で共通理解を図りながら推進していく。 ・様々な機会を繰り返して、教職員・保護者・地域に対し経営方針を周知していくようにする。 	A	A
	3	4	A		A	
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。</p> <p>①学力向上 学力向上委員会を中心に、学力向上に関する取組は、組織的・計画的に行っていく。</p> <p>②体力向上 一校一取組、一学級一取組を基に、運動を行い体力維持に努める。</p>	3	3	<p>【学力】</p> <p>○区学習状況調査では、区の平均点より全学年高く、目標値においては、5～10ポイントの高さであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、B層の割合が5割強のため、さらに学力向上を目指すには、着実な見直しや時間配分、文章題への解答等、正確に答えられるような学習となるようにする。 ・CD層の児童には、放課後学習等で、個別の課題に即して取り組み、「分かった」、「できた」という満足感を味わわせ、学習意欲へとつなげていく。 <p>【体力】</p> <p>○体力テストは、東京都平均より高いのは2年生、低いのは4年生であり、種目は「ソフトボール投げ」、「20mシャトルラン」、「握力」が低い傾向が見られた。</p> <p>○体力調査の8種目のうち都の平均を上回ることが多かったのは、「立ち幅跳び」、「反復横跳び」であったが、全体としては、4割程度であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げる場面を増やすこと、なわとび、持久走等、ねばり強く続ける運動、固定遊具を使った運動やタオル絞り等握る動きを取り入れていく。 ・「一学級一取組」や「体力向上タイム」で握力、投力向上の充実に努める。 	A	A
	3	3	B		B	
	<p>適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。</p> <p>①タブレット端末を活用した授業を実施。</p>	4	4	<p>○教員のタブレット端末を活用した授業展開も日常化しており、ロイロノートを使用しての児童間の共有も活発である。</p>	A	A

様式 4

	②読み語りボランティア「うめのみ」図書整理ボランティア等地域のボランティアを活用し、読書好きな児童を育成する。	3	4	・一人1台タブレット端末が文房具のように扱え、効果的な学習の道具となるように研修を充実していく。 ○毎月、図書ボランティア「うめのみ」による読み聞かせや読み聞かせ集会を行っていただき、子供たちは楽しみにしている。 ・図書整理ボランティアによる季節を感じる図書室の掲示や読み聞かせ等、引き続きお願いしていきたい活動である。	A	A
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等		先生方が協力し合って、行動されており、よい学校運営がなされている。図書ボランティアを活用した読書活動を頻繁に行っていて、素晴らしい。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。 ①学校だより、HP、SMS、保護者会、正門掲示板等を活用して、教育活動の見える化を意識して情報を発信していく。	3	4	○土曜授業参観を毎月実施することができ、月1回学校での児童の様子や授業の内容が分かり安心したという保護者からの声を聞いた。 ・ホームページや Facebook の更新・学校だより・保護者会の内容の充実・正門掲示板の更新等、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく発信するための工夫を更に行っていく。 ・不審者情報、感染症に関する対応など、COCOO 学校連絡を活用して適度に配信し、学校情報・児童の安全情報を保護者に迅速正確に伝えていく。	B	B
	②学校連絡・情報共有サービスの COCO で適度にメールを配信し、学校情報・児童の安全情報を地域町会保護者に迅速・正確に伝える。	3	4		A	A
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①PTA や地域町会主催の行事やイベントに参加することによって、教員が地域との連携を深める。	3	3	○「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して、94%の保護者が肯定的な意見であった。保護者の理解・協力があつての結果である。 ・PTA、おやじの会等の協力、保護者の皆様に理解をいただいていることに感謝を伝えていくとともに、学校のできる無理のない範囲の活動へと変えていく。 ・小梅小囃子等、小梅小のよき伝統を受け継ぐことに誇りと責任をもち、後生に伝えられる児童を育てる。	B	B
	②開校 100 周年の伝統を受け継ぎ、地域・児童・保護者・教職員と共に思いを共有する。	4	4		A	A
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等		保護者が分け隔てなく、教員とコミュニケーションが円滑にとれているのは、学校運営で大切なことである。子供たちのために、学校・家庭・地域が連携して取り組める体制を更に推進していただきたい。Facebook 等で学校行事や学習の内容が発信され、子供たちの様子がよく分かってよい。時代の変化とともに行事も変化しているが、残していくものは、残していく、これまでの人たちへの配慮も忘れないでほしい。				

様式 4

2 令和5年度学校評価のまとめ

「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して 94%の保護者が肯定的な意見であった。また、「小梅っ子は、『思いやりのある子』に育っている」93%、「保護者会の内容・説明は適切である」90%の項目に対しても高い評価を得られた。「学校に対する信頼はかなり厚く、その信頼に応えられる教育を推進していかなければならない。

その一方で、「体力づくりに励み、『たくましい子』に育っている」の項目は、72%と昨年度の 65%よりはやや増加したが、体力向上への取組はまだまだ課題である。校庭、体育館、屋上と限られた敷地の中で行える一校一取組として、年3回「体力アップタイム」、「ランランタイム」、「8の字チャレンジ」の期間を設け、全校で実施した。今後も体力向上の取組が分かるように情報を発信していくとともに、休み時間の遊ぶ場所、時間の十分な確保を工夫し、運動量を多くとれるようにしていく。

子供・保護者と地域・教職員ともに「三方よし」の評価を目指して、開かれた学校と家庭・地域との連携を大切にしながら質の高い教育の推進に邁進していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立小梅小学校 校長 増渕 裕美 公印